

清水則夫
三浦國雄
監修

二〇二三年二月刊行



浅見綱齋全集稿本

舞田敦編

二五〇年以上に及ぶ山崎闇齋学派の学統の証——明治〜大正時代に
崎門三傑の一人・浅見綱齋の遺著を整理して集大成しながら、
一〇〇年以上も秘蔵されてきた幻の全集の待望の公刊。

ぺりかん社

浅見綱齋

あさみけいさい 承応元年—正徳元年（六五二—一七二）

江戸時代中期の朱子学者。近江国高島に生まれる。京都で医業に就き、後に山崎闇齋に入門。佐藤直方、三宅尚齋とともに崎門三傑の一人に数えられる。垂加神道に傾斜した闇齋に異を唱え破門となるが、闇齋没後、闇齋学への復帰と継承を目指し開塾、若林強齋や山本復齋など優れた門人を輩出した。主著『靖献遺言』は幕末の勤王運動に多大な影響を与えた。

闇齋学派の思想家は概して著作の出版には熱意を示さず、綱齋の資料もその大半は未だに公刊されずに膨大な量の写本資料が全国各地の図書館などに点在している。そうした資料は閲覧・利用に大きな制限があり、このことが綱齋の全体像を把握することを困難にしている。

舞田 敦

まいたあつし 文久元年—大正十一年（一八六一—一九二二）

長州の松本村（現山口県萩市）に生まれる。幼少期から漢籍の素読を受け、また松下村塾で玉木文之進らの教えを受けた。明治九年、萩の乱に加わり、刑死を免れるも萩を追放される。東京の電信修技校に入学し、卒業後の明治十三年に官吏として桑名に赴任、同地で秋山罷齋の門下となり崎門学を学ぶ。

明治二十三年、私淑していた綱齋の全集編纂を志す。翌年、道学協会の『道



学遺書』発刊、盟友・吉田英厚と『桑名前修遺書』の刊行などを手掛け、同二十八年より任地で私塾・脱然書院を創設して講学・教育に努めた。大正二年、浅見綱齋先生遺著編纂会が設立され、本格的に『全集』の編纂を開始、二年後に一応の完成を見る。大正十一年、小石川の自宅にて死去。

【本稿本の概要】

●本稿本は浅見綱齋先生遺著編纂会の中心を担った舞田敦により編纂された『綱齋先生全集』全六十冊（大正四年に完成・未公刊）の「影印」と、監修者による詳細な「解題」で構成される。

※『綱齋先生全集』は平成二十四年、舞田家より大東文化大学図書館に寄贈された。

●『綱齋先生全集』は各資料の底本の明記、異本との校勘、末には舞田自身の識語も記されるなど、手続き上、現在の書誌学的観点からしても全集と呼ぶにふさわしいものであるが、いくつかの問題点も含まれる。今回の出版にあたり、この全集を将来「正確な校本を提供」する足掛かりとすべく、全集に残る問題を洗い出し、現存諸本の情報を整理することを目指した。

●本稿本の最大の特徴は、講義筆記の充実にある。先行する遺文集の類と比較しても、これほどの量を集めたものはなく、本稿本所収本が現存唯一の写本という資料も複数含まれる。そうした貴重な資料の収録に加え、これほどの量を一つにまとめた網羅性こそが、最大の価値といえる。

三浦 國雄「跋」より

浅見綱齋はこれまで、その著『靖献遺言』を中心に大義名分や尊皇論、それにナショナリズムといった観点から語られてきた。そういう論じ方は、実は綱齋思想の一面的な把握または誇張であることが近年明らかにされつつある。……綱齋に私淑していた舞田敦は、綱齋のなかに最もまっとうな儒学精神を見出して共鳴したからこそ、その全集の編纂と出版という難事業を思い立ったのであろう。敦は「浅見綱齋先生遺著編纂会」の名に托し、「近歳學術多岐ニ涉リテ聖道漸ク隱晦シ、世風智巧ヲ競フテ人心輕浮ニ趨ル。特ニ大義名分ノ学ニ至リテハ幾ンド昏昧弊塞ス……」と述べるように、彼自身の綱齋理解も旧套を出るものではなかったかもしれない。しかし彼は、「大義名分ノ学」の抜粹集ではなく、前人未踏の全集編纂を成し遂げ、さらに続編まで構想していた。……敦が全集編纂に志したのが明治二十三年（一八九〇）、一応の完成を見たのが大正四年（一九一五）のことであるから、本書が日の目を見るまで百年に余る歳月が流れたことになる。

一本情文俱文

已言樂正次以雅頌得所則雅頌何不與樂相關而各為一項事也集註言詩樂者言之順也若謂之樂詩則猶言是樂之詩云爾却詩字為主謂詩樂則詩也樂也各為一事而而言之情文表裡未常見其為各別焉且錢氏言樂失次言詩是亦恐未當皆令詩樂為恰好之誤也錢氏言其開失次言其冊曰詩曰樂皆然而直言樂則自兼在於其中也

出則事公卿章

此章莫高妙奇特艱難幽微之說唯宜味平談

絅齋先生全集

遺著編纂會

親切不下帶而道存焉之意集註愈卑愈切最切實蓋人之切近平實若飲食衣服不可得而離其最易忽者莫若此焉乃存養實事深體可見譬之語行路者不望其闊步疾足而惟丁寧告語以其勿踈勿僵夫才有足而行者誰不知其不踈不僵之可戒但少有慢易之萌乃其顛倒傷折矣猶何望其闊步疾足哉學者深省焉或問無他語類凡三條最可見集註愈卑愈切之旨說得極卑而說得極長最宜玩味南軒最親切

子在川上章

一本無息是文

一本有偶爾感發自無一妙焉十字依不覺識聖言之微者不能錄矣十二年一本四者皆佳者一本無也字

一本毫下有一字

此章本非發明道體以告學者因川流以發示道體之不息以欲學者自勉不已也然即其語味之則高下淺深細大上下道體無窮無息之妙自無遺矣大抵聖人之言皆如此而此章最意味深長氣象從容有不可以言語喻者且子在川上曰五字此非文義難解而有偶爾感發自然之妙焉逝字有一往不返無窮之意逝者指全體如斯指川流不可以如字為譬喻之字川流即道體之一而其特著者猶中庸指鳶飛魚躍也夫者加疑而歎辭舍猶泰置之意言水之流行無舍一時一息之間

絅齋先生全集

遺著編纂會

正據水而言不可言水無止時也音義舍上聲可見不念晝夜文意最宜審諸意若曰水能自無間斷作輟無亦舍晝夜而不流之時也乃是水自強不息矣夫水之流行乃道體之自然何容自強但在彼則自然而自吾觀之即見其晝夜流行健往大力量度體段實切也此只得于言意之表可也若但謂水流不止而已矣則何不曰晝夜不止而必曰不舍晝夜便見指示學者欲時時有察而無一毫間斷之意自著明深切矣集註化字便見從來變化不息之意指字最切不可漫看天地之化

清水則夫・三浦國雄 監修

〔二〇二二年二月刊行〕

浅見綱齋全集稿本 舞田敦編

■B5判上製／上・中・下巻セット函入／各巻平均七二二頁
セット定価九九、〇〇〇円（本体九〇、〇〇〇円＋税・分売不可）

ISBN978-4-8315-1605-3

発行・発売 ぺりかん社

各巻収録内容・目次

上巻（七三三頁）

舞田敦編『浅見綱齋全集稿本』解題（清水則夫）

大東文化大学図書館蔵『綱齋先生全集』について

付表『綱齋先生全集』目録

各冊解題

綱齋先生全集上

壹（凡例／目録／表／年譜略／実紀）

二（文集一）

参（文集二）

四（文集三）

五（手簡）

六（箴録上）

七（箴録下）

八（答問）

九（語録）

十（靖

献遺言一、四）

十一（靖献遺言五、六）

十二（靖献遺言七、八）

十三（靖献遺言講

義／靖献遺言附講）

十四（忠孝類説／赤城忠士筆記／赤穂四十六人辨）

十五（氏族辨證

／氏族辨證附録）

十六（聖学図講義／白鹿洞書院揭示集註講義）

中巻（六七七頁）

綱齋先生全集

十七（大家商量集講義）

十八（玉山講義師説）

十九（拘幽操師説）

廿（敬斎箴師説／敬斎箴附録師説）

廿一（朱子社倉法師説）

廿二（雜講義）

廿三（雜

筆記）

廿四（小学雜説）

廿五（大学雜説）

廿六（綱齋先生朱批大学伝五章講義／校定

大学伝五章講義／佐藤三宅二家批評浅見安正大学伝五章講義抄膳）

廿七（辨大学非孔書辨／

辨大学非孔書辨講義）

廿八（批大学辨断）

廿九（論語筆記一）

三十（論語筆記二）

卅一（論語筆記三）

卅二（論語雜説）

卅三（博施濟衆章筆記／博施濟衆章筆記抄略／克

己章筆記／評本克己章筆記）

卅四（仁説問答師説）

卅五（異本仁説問答師説／附録又論

仁説講義）

卅六（仁説問答筆記／仁説問答師説抄略）

卅七（孟子雜説）

卅八（孟子浩

然章講義）

卅九（中庸雜説）

四十（太極図説筆記）

下巻（七二七頁）

綱齋先生全集下

四十壹（性理字義講義上）

四十二（性理字義講義下）

四十三（西銘参

考／西銘考説／薛氏西銘諸説）

四十四（程子論性諸説／程子論性諸説）

四十五（敬義内外

説／敬義内外説師説）

四十六（四箴附考／四箴附考師説）

四十七（易学啓蒙講義一）

四

十八（易学啓蒙講義二）

四十九（易学啓蒙講義三）

五十（易学講習別録／易学啓蒙序師説

／易学啓蒙序講義略）

五十一（啓蒙補要解師説）

五十二（朱易衍義講義）

五十三（卦爻

諸説／卦象集説）

五十四（增補易説備考）

五十五（易学雜説）

五十六（洪範師説）

五十

七（感興考註講義上）

五十八（感興考註講義下）

五十九（喪祭小記／喪祭略記）

六十（諸図）

跋（三浦國雄）

購入申し込み

セット

お名前・ご連絡先

ご注文は最寄りの書店をご利用ください

書店使用欄

【凡例】

本全集稿本は、上巻・中巻・下巻の三巻本である。各巻の構成は、上巻が「舞田敦編『浅見綱齋全集稿本』解題」（清水則夫執筆）と「綱齋先生全集上」（影印・第一冊～第十六冊）、中巻が「綱齋先生全集中」（影印・第十七冊～第四十冊）、下巻が「綱齋先生全集下」（影印・第四十一冊～第六十冊）と「跋」（三浦國雄執筆）である。

「解題について」

・収録された各著作について、内容の概略、講義筆記の場合は筆録者、成立時期、敦が依拠した底本、現存する他の伝本を記した。ただし国文学研究資料館『日本古典籍総合目録』によって検索可能なものは、原則的に省略した。

・すでに翻刻や影印があるものについては、漏らさず記載するようにつとめた。また過去に作成された綱齋の遺文集に収録されているものも、明記するようにした。

・全集所収の各著作の判読困難な箇所、あるいは著しく影響を及ぼすような脱文などに関しては【補記】という形で補った。その際に依拠したテキストは、すべて明記してある。

【監修者略歴】

清水則夫（しみずのりお）

一九七五年栃木県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。明治大学理工学部准教授。近世日本思想史専攻。論文「十八世紀前半の朱子学者について——徂徠以後の朱子学者」（『土田健次郎教授退職記念論集 朱子学とその展開』汲古書院）、「浅見綱齋の「大義名分」の再検討」（『日本思想史学』四八号）

三浦國雄（みうらくにお）

一九四一年大阪市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程（中国哲学史）中途退学。文学博士（大阪市立大学）。大阪市立大学名誉教授。中国思想史・東アジア比較文化論専攻。主著『朱子と氣と身体』（平凡社）、『不老不死の欲求——三浦国雄道教論集』（四川人民出版社）

ぺりかん社

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 電話 03-3814-8515 FAX 03-3814-3264 URL <http://www.perikansha.co.jp/>